

東京スカイツリー



- 東京スカイツリー 6.32km - 宮中三殿賢所 - 三囲神社 6.32km
- - 道灌霊社 6.32km
- - 自由の女神像 6.32km
- - パレスチナ大使公邸 6.32km

東京スカイツリー

電波塔（送信所）。2012年5月に電波塔・観光施設として開業した。2003年12月に日本放送協会（NHK）と在京民間テレビ局5社（日本テレビ、TBSテレビ、フジテレビ、テレビ朝日、テレビ東京）が600メートル級の新しい電波塔を求めて「在京6社新タワー推進プロジェクト」を発足、新タワー構想を推進していくことで建設に向けた計画に進展が付いた。オフィシャルパートナーに三井住友信託銀行。

東京都墨田区押上1丁目1-2



三囲神社

倉稻魂命（宇迦之御魂神）を祀る。旧村社（現在はかつての小梅村にあたる地区にあるが、旧地は須崎村にあったと推測されている）。元、田中稻荷と称した。創立年代は不詳。伝によれば、近江国三井寺の僧源慶が当地に遍歴して来た時、小さな祠のいわれを聞き、社壇の改築をしようと掘ったところ、壺が出土した。その中に、右手に宝珠を、左手にイネを持ち、白狐に跨った老爺の神像があった。このとき、白狐がどこからともなく現れ、その神像の回りを3回回って死んだ。三囲の名称はここに由来するという。

元禄6年（1693年）、旱魃の時、俳人其角が偶然、当地に来て、地元の人々の哀願によって、この神に雨乞いする者に代わって、「遊（ゆ）ふた地や田を見めくりの神ならば」と一句を神前に奉ったところ、翌日、降雨を見た。このことからこの神社の名は広まり、松阪の豪商・三井氏が江戸に進出すると、その守護神として崇め、越後屋の本支店に分霊を奉祀した。三井家では、享保年間に三囲神社を江戸における守護社と定めた。理由は、三囲神社のある向島が、三井の本拠である江戸本町から見て東北の方角にあり、鬼門だったことと、三囲神社の“囲”の文字に三井の“井”が入っているため、「三井を守る」と考えられたため。社域の一角には没後100年を経た三井家当主たちを祀った「顕名霊社」がある。三井グループ各社の総務部によって三囲会が組織されており、年に4回代表が一堂に会し祭典を催している。閉店した池袋三越前にあったライオン像も寄贈されている。三越各店に分社があるが、なぜか日本橋本店（屋上）ではなく銀座店（9階屋上）に社務所がある 東京都墨田区向島2丁目5-17



道灌霊社（駒込妙義神社）

日本古代史における伝承上の英雄 日本武尊が、当時東国にいた民族である蝦夷を討つために東征した際、この妙義神社がある場所に陣営を構えたと伝えられています。日本武尊が東征した後、この地に社が建てられ、日本武尊が白鳥に生まれ変わり飛び立ったという伝説から、白雉（はくち）2年（651）5月12日、白鳥社と号しました。豊島区内では最古の神社として伝えられています。

また、「新編武蔵風土起稿」によると、最初に江戸城を築いた室町時代後期の武将 太田道灌は、文明3年（1471）5月、古河公方 足利成氏との戦に出陣する際、当社に参詣し、神馬、宝剣を寄進し戦勝を祈願しました。その後、文明9年（1477）春、平塚城（現在の東京都北区上中里）を拠点とし関東管領上杉家に反旗を翻した豊島勘解由左衛門を討伐する際や（長尾景春の乱）、同11年（1479）春、室町幕府に造反した千葉孝胤を攻める際にも道灌は当社に必勝を祈願し、見事勝利を収めました。この様なことから、当社は当時から「勝負の神様」「戦勝の宮（みや）」と呼ばれ、人々よりあつい信仰を集めました。当時、当社境内には稲荷山という小高い山があり、道灌は稲荷山に立ち豊島氏の平塚城を望みながら戦略を考えたのではと思われます。

社殿の右側にある末社・道灌霊社には太田道灌公が祀られています。太田道灌（おおた どうかん）は、室町時代後期の武将。武蔵守護代・扇谷上杉家の家宰。摂津源氏の流れを汲む太田氏。諱は資長（すけなが）。太田資清（道真）の子で、家宰職を継いで享徳の乱、長尾景春の乱で活躍した。江戸城を築城したことで有名である。武将としても学者としても一流という定評があっただけに、謀殺されてこの世を去った悲劇の武将としても名高い。

東京都豊島区駒込3丁目16-16



自由の女神像（お台場）

東京台場には、パリの自由の女神像が、日本におけるフランス年事業の一環として1998年4月29日から1999年5月9日まで設置されていた。この事業に関しては、1998年4月28日に点火式が行われ、フランスのジャック・シラク大統領、橋本龍太郎首相（当時）などが参加した。この事業が好評を博したため、その後、フランス政府からレプリカの制作が認められフランスのクーベルタン鑄造所にて複製されたブロンズ製のレプリカが2000年に設置された。このフランス政府公認のレプリカは「台場の女神」という別名で呼ばれることも多い。



「米国からの攻撃に対抗して作ったお台場に米国の象徴が置かれている事態。普通の日本人は何とも思わないのだろう。私は右翼ではないが保守派である。先祖は当時全力をあげて米国に立ち向かった。その象徴的な場所お台場に米国の象徴がある。私はその矛盾に気がつかない日本人に苛立ちが止まらない。」

仏塔ぐでだま亭免堂苦齋@wheyh

東京都港区台場 1-4 台場海浜公園内

パレスチナ大使公邸

エルサレムは ユダヤ教と キリスト教と イスラム教の聖地。

民族宗教ユダヤ教の聖典タナハでは、パレスチナの地は神がイスラエルの民に与えた約束の地であると説かれ、このためヘブライ語では「イスラエルの地（エレッツ・イスラエル、Eretz Yisraël）」とも呼ばれるようになった。のちにユダヤ教から分かれてキリスト教が興ると、その聖地として世界中の信徒から重要視されるようになった。さらに、ユダヤ教・キリスト教の影響を受けアラビア半島に興ったイスラム教も当然エルサレムを聖地としたため、諸宗教の聖地としてエルサレムを擁するパレスチナは宗教的に特別な争奪の場となった。

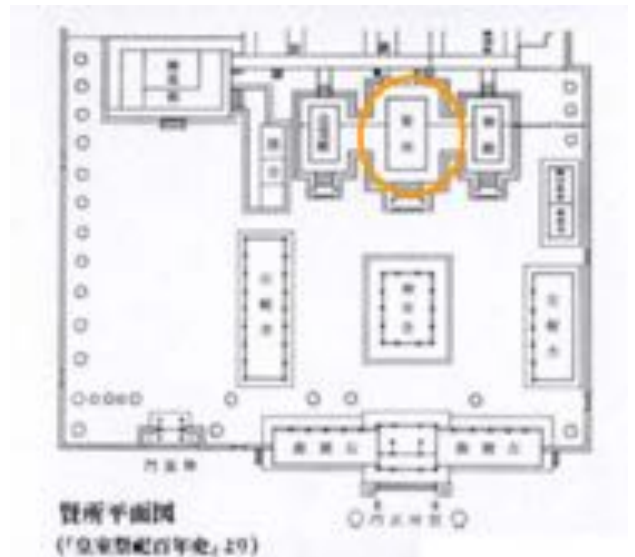


東京都品川区東五反田5丁目17-8

皇居 宮中三殿 賢所

宮中三殿は、皇居内にある三つの連結された建造物の総称である。それぞれ、神道の神を祀っており、宮中祭祀（皇室祭祀）の中心となる。宮中三殿の構内には、附属するいくつかの建造物が配置されている。四方拝、新嘗祭が行われる**神嘉殿**（しんかでん）、鎮魂祭や天皇皇后の装束への着替えが行われる綾綺殿（りょうきでん）、神楽が行われる神楽舎（かぐらしゃ）、楽師が雅楽を演奏する奏楽舎（そうがくしゃ）、列席者が待機する左幄舎（ひだりあくしゃ）と右幄舎（みぎあくしゃ）、賢所に正対する賢所正門、新嘉殿に正対する新嘉門などである。宮中三殿の祭祀は、明治維新から宮中祭祀の変遷と漸次的集約を経て、教部省が成立した直後の明治5年4月2日（1872年5月8日）に整ったと解されている。

賢所には皇祖神天照大神を祀る。その御霊代である神鏡（八咫鏡の複製）が奉斎されている。また「かしこどころ」と読んで神鏡そのものを指すこともある。古代より宮中で祭祀された。掌典及び内掌典が御用を奉り、「忌火」（「神聖な火」の意味）を護り続けるとされる。平安時代は温明殿（うんめいでん）、鎌倉時代以後は春興殿にあった。古代から続くという宮中祭祀が行われ、現在の皇后、皇太子妃など皇族の妃らを宮中に迎える結婚の儀もここ



で行われた。その際、后妃が賢所を退出した際に婚姻成立とみなされる。神聖な場所のため穢れを嫌い、「次清」の別などの厳格な規律があるという。

なお、宮中三殿のうち賢所は古代から宮中で奉斎されてきましたが、皇霊殿と神殿は、明治維新以降の宮中祭祀制度の再編成によって新たに宮中に遷座・奉斎されたものです。

東京都千代田区千代田 1-1

備考

三井寺の僧源慶が開いた三囲神社は昔から三井財閥の守り神。明治になり、その三囲神社とヤマトタケルの蝦夷東征の地だった白鳥社+太田道灌とを繋いで、天皇家を護り、逆に護られるしくみ。

そこにアメリカを象徴する自由の女神像、聖地パレスチナの大使公邸、そしてスカイツリーも関わらせた。スカイツリーは三囲神社と近同距離になることで天皇家から気を引き寄せ力を持つしくみとなっている。



■ 宮中三殿賢所 6.32km - 東京スカイツリー - 皇居吹上新御所 6.32km



備考

オフィシャルパートナーとして建設した東京スカイツリーに集まった気を宮中に引き寄せるしくみ。スカイツリーは、天皇家、天皇系財閥、政府が、国民を洗脳・統治するために使うメディアの二代目洗脳電波塔。

「八紘一字」国柱会の多宝塔



■靖国神社 6.39km - 東京スカイツリー 国柱会本部 6.39km

靖国神社

祭神は、幕末から明治維新にかけて功のあった志士に始まり、1853年（嘉永6年）のペリー来航（所謂「黒船来航」）以降の日本の国内外の事変・戦争等、国事に殉じた軍人、軍属等の戦没者を「英霊」と称して祀り、その柱数（柱（はしら）は神を数える単位）は2004年（平成16年）10月17日現在で計 246万6532柱にも及ぶ。

東北地方は、仙台第二師団のガ島玉砕、第36師団（雪部隊）のニューギニア玉砕はじめ、戦没者の多い地域だが、「靖国神社に参拝すべきだ」とする意見には異を唱える人が多い。「朝敵は弔わず」、これは賊軍に対する明治政府の一貫した姿勢だった。東北(奥羽列藩同盟)の犠牲者をはじめ、彰義隊、西南の役の西郷隆盛側などは、靖国はもちろん、日本各地の招魂社(護国神社)にも祀ることはなかった。

そして、薩長中心による富国強兵政策の一貫としての軍事強化推進が、その後の日清・日露・大東亜戦争につながったと見るのが自然だし、靖国はその精神的支柱として存在した。今なお、“明治政府（官軍側）は素晴らしかったと絶対視”し、賊軍とされた地域のインフラ整備の後回しなど、東北蔑視政策が続くかぎり、多くの東北人が心から靖国神社を参拝する気持ちにはならないだろう。

そこには、薩長が天皇を人質同然にした当時の、「天皇陛下＝靖国神社だ。文句あるか」という、天皇の威光を利用するだけ利用した空気の流れている。それに比して、京都守護職を務めた会津藩主・松平保容は、孝明天皇から辰翰を賜り、正に官軍だった。明治26年12月5日松平保容公死後、辰翰の事実を知った明治政府は、この内容が公になれば、自分達が嘘で固めた歴史観が根底から覆えるとあわてた。そして、明治政府は密かに大金で譲渡するように圧力をかけたが、会津藩・松平家はこれを頑強に拒否した。何度でも繰り返すが会津藩側が官軍、薩長土肥(明治政府)側が賊軍だったのだ。

それに薩長や岩倉具視らの戦略による錦旗の偽造や、孝明天皇の毒殺説も有力だ。これが薩長は「偽（にせ）官軍」と言われる理由であり、偽（にせ）官軍が天皇陛下の威光を利用するために作ったのが「靖国神社」という図式になる。

日本を再び戦争をする国家にさせようと企む人達にとっては「国のために命を捨てさせる」ための装置としてこの神社は象徴的な大きな意味をもつものなのでしょう。

<http://z-shibuya.cocolog-nifty.com/blog/2010/08/post-e1bb.html>

千代田区九段北3丁目1-1



国柱会

国柱会（こくちゅうかい 國柱會）は、元日蓮宗僧侶・田中智学によって創設された法華宗系在家仏教団体。純正日蓮主義を奉じる右派として知られる。智学の思想による「全国の神社に祀られる主神はすべて皇祖神に統一されるべき」という主張があった。

国柱会の名称は、日蓮の三大請願の一つ「我日本の柱とならん」から智学によって命名された。独立した宗派としての正式名称は「本化妙宗」。また、智学の造語であり、戦前日本では国家主義のスローガンとして多用された「八紘一宇」を最初に標榜したのは国柱会であった。「日蓮主義」という表現も、国柱会によって初めて使われた。

「主義」という概念が、明治以降に流入した西洋哲学に由来するものであり、後述のように日蓮主義という概念は、日蓮教学の近代的体系化の一端を表している。

本化妙宗としての信仰は、釈尊を教祖、日蓮を宗祖と仰ぎ、本尊は日蓮大聖人の「佐渡始頭の妙法曼荼羅」としている。

智学が日蓮宗の宗義に疑問をいだき、還俗して最初に設立したのが「蓮華会」という組織である。1880年（明治13年）、横浜において結成され、国柱会のさきがけとなった。その後、東京進出にともない1884年（明治17年）に名称を「立正安国会」に改名。「宗教ヲ以テ経国ノ根本事業トスベシ」と宣言し、在家主義の立場から仏教の近代化を目指した。

1926年（大正15年）には明治節制定の請願運動を契機に外郭団体「明治会」が創設され、愛国主義運動を宣揚、1927年（昭和2年）に請願が実り明治節が制定された。帝国陸軍・石原莞爾中將の「東亜連盟」構想や「世界最終戦論」、更には石原が参謀であった満州国建国の思想的バックボーンとして、国柱会の思想は多大な影響を及ぼした。特に満州国には皇軍慰安隊を国柱会より派遣し、関東軍軍人を支援している。この時期が国柱会の歴史上もっとも活況だった時代であり、日蓮系諸教団の中でもエリート主義集団と目されるほど、有数な著名人が会員であったことで知られる。

1928年（昭和3年）に、智学の念願であった法華経の宝塔を彷彿とさせる壮大な「妙宗大霊廟」を東京・一之江に創建し、「私の卒業論文」と言わしめた。同年、日蓮聖人650年遠忌を契機として「祖廟中心・宗門統一」をスローガンのもと「身延登詣団」を結成し、現在でも毎年続けられている。会員だった宮沢賢治（昭和8年ボツ）の遺骨の一部が収められている。

1939年（昭和14年）に智学が示寂し、智学の長男・田中芳谷が次代会長に就任。1945年（昭和20年）、戦災によって本部講堂を消失、また敗戦に伴い勢力は著しく減退した。

現在も「純正日蓮主義」を掲げ、在家主義と国粹主義を標榜する団体として独自に活動を行っているものの、「在家主義」や「国立戒壇」など国柱会独自の思想を戦後創価学会などに流用され、またその独自の右翼思想も時代に埋没してかつての活況を見せていない。2005年（平成17年）、国柱会創立120周年記念式典の直後、当時会長職にあった4代目・田中暉丘が教団の世代交代、若返りを目指して、会長職を当時28歳だった長男・勇一郎（田中壯谷）に譲位。宗教団体のリーダーとしては極めて異例な若さでの会長（寨主）就任に注目が寄せられた。

日本会議関連団体である「美しい日本の憲法をつくる国民の会」代表委員に教団幹部が就任している、としている。

東京都江戸川区一之江6丁目19-18

備考

東京スカイツリーは、日蓮主義、右翼思想、国家主義、皇祖神統一主義の国柱会と、騙されて戦死させられた靖国の246万の御霊を脇侍にして護られてある。天皇家が力を持つためのまさに現代版の多宝塔だった。スカイツリーには、隠し本尊の多宝如来がどこかに祀られているのだろう。



多宝塔について

多宝塔は、「法華経」見宝塔品第十一に出てくるもので、釈迦が靈鷲山で法華経を説法していると多宝如来の塔が湧出し、中にいた多宝如来が釈迦を讃嘆し半座を空け、二如来が並座したとされることに由来する。見宝塔品には、「世尊（釈迦）が説法をしていると、大地から巨大な七宝塔（金、銀、瑠璃などの七宝で造られた塔）が涌出（ゆじゅつ）し、空中にそびえた」との説話がある。この宝塔は過去仏である多宝如来の塔であった。塔内にいた多宝如来は釈迦の説く法華経の教えを讃嘆し、正しいことを証明して半座を空け、釈迦とともに並んで座ったと説かれる。「多宝塔」の名称はこの法華経の所説に由来するものと思われる。ただし、漢訳経文中の用語は「宝塔」または「七宝塔」となっている。これらの記述から多宝塔に二如来を安置する場合は、向って左に多宝を、右に釈迦を置くことになっている。この見宝塔品のエピソードは法華経の中でもドラマチックな場面の1つであり、法華経の真実性を証明するものとして著名で、さまざまな形式で造形化されている。たとえば、奈良県長谷寺所蔵の銅板法華説相図（国宝）はこの見宝塔品の場면을造形化したもので7世紀末の作品である。ただし、この作品に表されている塔は平面六角形の三層塔である。

